

## MV-22オスプレイの金武町における訓練に反対する抗議決議

沖縄県民の度重なる抗議にも関わらず、MV-22オスプレイの訓練が10月4日に開始され、金武町の民間地上空での飛行や金武ブルー・ビーチ訓練場内で離発着する異様な雰囲気により多くの町民が強い衝撃を受けた。

金武町議会は、平成22年10月1日、平成23年6月27日及び平成24年6月22日付けで、意見書及び抗議決議を可決し日米両政府に対し、同機の沖縄配備撤回を強く訴えてきた。同機による訓練開始は、度重なる金武町民の願いを踏みにじるものであり、大きな憤りを覚えるものである。

米海兵隊の環境レビューによれば、キンブルという新たな着陸帯の存在も浮上しており、既存の着陸帯スワンを含めると、同機による金武ブルー・ビーチ訓練場での訓練が、年最大で1680回想定されるという由々しき問題を断じて許すことはできない。町では、基地経済脱却への起爆剤として、金武ブルー・ビーチ訓練場に隣接する旧ギンバル訓練場内で様々な計画を進めているが、世界で最も危険な軍用輸送機による、金武ブルー・ビーチ訓練場及びキャンプ・ハンセン基地等町内での訓練は到底看過できるものではない。

よって、金武町議会は、町民の生命と財産を守る立場から、今般のMV-22オスプレイの金武町における訓練に対し、満身の怒りを込めて抗議するとともに、下記事項の実現を強く要求する。

以上、決議する。

### 記

#### 1. MV-22オスプレイ沖縄配備を即時撤回せよ

平成24年10月11日  
沖縄県金武町議会

宛先

内閣総理大臣

米国合衆国大統領

外務大臣

駐日米国大使

防衛大臣

在沖縄米国総領事

沖縄・北方対策担当大臣

外務省特命全権大使（沖縄担当）

沖縄防衛局長

可決

平成24年10月11日  
金武町議会議長 仲里全孝